京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年　紀元二千五百六十九年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

昔茶漉茶

▲前功後罪を償ふか

前功は以て後罪を償ひ得るか。後善は以て前惡を消し得るか。前非を悔ひて後ち改め、積善篤行ならば則ち人は昨の罪惡の人にあらずして、積善篤行の人なり。過去の罪惡は之によつて滅するのみならず、惡徒を以て復た待たず即ち後善は以て前惡を消し得たるものと謂ふ可し。前功を賴んで後ち驕り、退惡淫行ならば則ち人は昨の善良の人にあらずして、退惡淫行の人なり。過去の勳功は之によつて滅するのみならず、功臣を以て復た待たず。即ち前功は以て後罪を償ひ得るものと謂ふべからず。單り怪しむ、一たび亂を爲して錦旗に向ひしもの、後再び功臣の列に入りしものあるを、是れ前功の以て後罪を償ひ得たりし者か、抑々又た勳績の大の、反逆の大罪を償ふて餘りありしもの歟、愽らくは是れ後進を誡ゆる所以にあらざるなり。

▲商法改正と監査役

重役の不正會社の破綻殆ど日として聞かざるなし。是れ畢に其局に當るものゝ其の人を得ざるに基因し、罪其の人にありと雖ども、又た法の不備に職由する無からず。頃者富井博士主査委員長の下に、商法改正の案文成るを告ぐ余輩は双手を擧げて歡迎するものなり其改正せられし條項は、總則四十一條中九、會社法三百九十一條中九十七にして注目に値する所は、會社法中發起人社員監査役淸算人所謂重役社員等が不正行爲を嚴密に取締る點にあり。而して商法第二百六十二條の罰則の如きは根柢より改正し、重役が會社の財産を隱蔽し、虚僞の計算配當を行ひ、濫に財産を分配し若くは官廳又は總會に不實の申立を爲す等、苟も會社の基礎を危くし、株主に損害を蒙らしめたる時は、七箇年以下の懲役に處し二十圓以上三千圓以下の罰金を附加すとせしが如き、近頃快心の事たり。唯憾む所は監査役を尙は株主の内より選出するの弊を改めざるにあり。然も此一事は以て殆ど全部の改正を無意味ならしむるの感あり。余輩が期したる所は實に此改善にありき。英のチャーターアッカウンタントの制に倣ふべきにありき。道德の下落今日の如く甚だしく到底重役に放任し能はずとすれば、監査役を全然局外の一公職たらしむの必要を感ずるや切なり。遮莫れ人間は遂に法律に制せられずんば、道德を守ること能はざるものか。

雜報

伊藤公と目賀田男（二）

此時に於て貨幣整理は既に進行を始め是と共に京城の商民は大に金融の逼迫を感じ救濟を求めたることでありまず公の渡韓に先ち此救濟資金を日本政府より韓國政府に貸附することに就き協商を重ね居りしが、幸ひ公の着韓ありしに由り、無利息、無期限にて百五十萬圓の救濟資金貸附のことを公は速に取計ふべき旨を命せられたことであります、當時次年度の豫算編制計畫中にて、又當時歳計の能ふべき範圍内に於て、一般官吏の俸給制度を改正したる時に當り、是と同時に皇室費改正若くは增額の經畫を有したことですが、韓國皇室の希望に從ひ、皇室費を增額して之を確定すると共に、政府の側より干與することを止むべきとの希望に依り公は寧ろ此の如く爲して皇室費增額を行ひ、其尊嚴を維持せしむる方然るべしとのことを示されたとでありまず、是よりして皇室費は從前に比すれば殆ど倍額に爲りたるとに運んだのです、此の如く上は皇室、下は人民のことに對し、公の當時心配せられしことは始終論つたことは無いのです

次て公は統監に任せられましたが、御發任に先ち私は東京に歸り、從來の成行を公に親しく陳述し大體の方針に就き一に進止を公の命に待ち、訓示を請ふたことであります、時に公の申されしには、財政整理、就中貨幣整理の基とても既に端緒を啓きしまでにて、未だ充分なる見込も立たぬではあらうが大體の豫算を如何するや、又歳計の摸樣は如何なるや、又關税の收入の如きは如何なるや等のことを問はれ、總ての收入は漸次統一を圖り、關税事務の如きも此時漸く私の手に於て統一を得たる場合にて、まだ大體の成行に完全に總ての收入を統一する能はず、各部各々收入を私し又は支出も勝手に爲すといふと、今漸く統一を得んとする時であることを申しました、尙は問はるゝには右の如き有樣なるが故に大したる施設も出來まじきことゝは思ふが、何か經濟の發達のことに關し見込を立てられ居るやとの御尋ねに就き、道路開鑿、港灣設備或は農業銀行の設立等既にそれ〳〵着手を促がしたるものあり、併ながら何分未だ完全なる資金に對する經畫を立つるに至らず、幸にして統監の就任と共に前以ての交渉に從ひ、興業銀行より資金借入の經畫を成就せしむべしとて陳述せしに然らば出來るだけ先づ大きな資金を得る方が便利なるべしとて、之に對する細やかなる御示を受けたのです、無幾くして公は着任せられ、私は其時の狀況に從ひ施設せらるべき事業はそれ〳〵相談の上之を公に致しました。（續）

和歌募集

勅題「新年雪」

選者　九皐館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月二十日、發表は四十三年一月元日の本紙上を以てす、同好の士奮て投詠せられんことを希ふ

十一月廿日　本社編輯局

寄書

合邦論の今後

旭川

日韓合併論の愚論なることは言ふに足らず、昨日の貴紙社説に盡きたり、所論の如く一面に彼等は此れに依りて、幾何かをせしめんと企てたるなり、否、或は既に何程をかせしめ得たりやも知る可らず。兎に角一先づ何程をかせしめたりとすれば彼等の重なる目的は達せられたりと云ふべき也。私に思ふに、恐らくは彼れ等自身とても合邦論の愚論なるは知れるも、若し更に一歩を進めたる言論を成さば、せしめ得ざる前に自滅を根本より危ふするものあるを思ひ、斯くは白ばくれたるものに非ざるなきか。目的はせしむにあり、合邦論にあらず、況んや合併をや、日人に對へば合併の避く可らざるを云ふものは一進會員なり、加も云ふのみ、欲する所には非ざるを看ざる可らず、合併の避く可らざる運命なるは知れるも、避け得可くんば避けんと希ふも情也、故にせしめん事の機會を利用して、合併の希ふ所にあらざるを暗々裡に提示し、日人の思慾に探りを入れたるなり、苦衷は察すべきものあるも、眼前の見ざる迂遠さ加減は到底韓人たるを免るべくも非ず。韓人たる一進會員の迂遠は笑殺すれば足るも、日人にして此の議に與りたる某々等が此の又迂遠なる韓人の薦ける芝居の筋を見透かし得ず、せしむるにのみ熱し居たる愚は韓人以上也。幵は兎に角、此れから後が山なり、一進會は如何に此の尻をツボメんとするぞ。（七日稿）

俳句

▲寒稽古五句　孑春

寒稽古祇園の禿聲黄なり
中券に姉は居るとや寒けいこ
七ッから廓に育ちて寒けいこ
冷やかな親持つ子也寒けいこ
玉の輿に乘る勝ち氣あり寒習



第五十席

伯山改　神田松鯉口演

鬼夜叉が止むるをも聽かず爲朝は多く罪も無きものを殺すも詮なきことゝて助からぬ身なれば、自殺して潔よく大島の露とならんと決心をなされた、鬼夜叉が館の周圍へ積重ねた柴や雜木に火を放ければ、爲朝の傍へ彫江、爲賴、島君の三人座を占めまする「オゝ能く聽けよ、我れ敵の船を一々海中に沈め、此の島を逃がるゝことイト易けれども、今は朝敵の名を蒙つて、官軍に弓を引くは恐れ多し、人生僅かに五十、朝露にも均しき身を以て我れ一人助からんが爲めに多くの人を殺すも益なきこと、依て潔よく死なんと思ふ汝等も朝敵の妻、謀反人の子なれば迚も助からんやうもなければ、諸共に冥土の旅をせ」と宣へば彫江は涙を拂ひ「仰せまでもございませぬ、御先きへ御免遊ばせとすらりと、脫ぬて短刀に島君を引寄せ妨けなき可愛の顏を打眺め、顫ゐる手元を確どこたへ我が傍らへ引付け「オゝ、武子の子おや、覺悟しやれ、地藏尊南無阿彌陀佛」と唱へつゝ、刀尖あがりに咽吭に引まはす、白く妙なる腐より流るゝ鮮血は、消殘る二月の雪に紅梅の花散かゝる異ならず彫江は「爲朝は、れ父上に願います、る後れはせじ」と把直す、懷劒咽部に突立たり、掛りける處へ沖の方に鬨の聲の鬨亂るゝ松風に浪の音添ふ攻鼓、鼕々と響ゐて間近く聞ゐければ、鬼夜叉は、ツト欄干に身を寄せて、見渡しまするに、ハヤ海面の霧露て、敵の兵船列を正し、浪に映ずる夕陽は閻王宮の獄卒が火の車を曳來りて、罪人を迎ふるも斯やと思ふ許りなり「さて夥しき官軍かな、何時まで時を移すべき、痛ましく候へども、迚も助り玉ふに非ず、鬼夜叉が介錯に苦痛を脫れ玉へとて、刀を拔て島君の御背に立寄はり、見れば目を閉頸を伸べ、唱名の聲細かにて、とく〳〵と申されます、餘りのいぢらしさに手を下し兼ねしが、遂にスパリと首を刎ました扨又彫江が後方に立見れば三十に未だ足らぬ姿花はもやかに美しきこと稀れなるべし、嵐に島山の若木を無下に枯らすかと思へば猛き心も弱り果て涙は盡ぬ、本の露末の雫となるまでに、躊躇逡巡するのをなし、女々敷は日來にも似氣なきこと」と彫江漸く見返りて「聽せしか言ひがひなし、女々敷は日來にも似氣なきこと」とゝ勵ませば、鬼夜刃げにもとうなづきて、今は心を鬼にして閃めく刀の下に彫江の首は落ちました、爲朝は之れを見て「左らば予も共に冥途に赴かん」と爲賴を一刀に首打落し、御自身も腹搔き切つて自殺されました、鬼夜叉は手早く後庭へ穴を堀つて爲朝の屍を埋めて大石を其上へ轉がし、立歸つて彫江、爲賴、島君の屍と首を泣く〳〵一つに寄せて薪を此上へ積重ねて火を放つた前に放ちし火も炎々と燃上りて折しも烈しき浦風に軒より軒へ吹うつされ、大厦高樓忽地に焔と成つて燃揚れば、鬼夜叉腹卷解捨て立ちながら腹搔切り猛火の中に飛入りて灰燼と成りて失にけり、寄手の軍兵は今や火光の揚るを見て、猛く騷ぎ立ちスハヤ爲朝は館に火を掛けて自害すると覺れたり、寄せよ〳〵と罵り合ひ、乘替船を乘積て馬の足の立程にもなりしかば、馬をば追おろして、シタ〳〵と打乘り、辛じて磯に登りましたが、誰引寄して討んずらん、誅にやとて、直ぐには討入らず、是全く官軍の臆せしにもあらず、只日來爲朝の武勇よく人を畏れしむるに足る故であります、現角する程に館は八ヤ燒捨て殘るもの一人もなし、餘りに長詮議して燒首を取るこそ恥なれ、加藤景廉一番に進み入るに、七尺有の大男立ながら腹を切たるあり、全体爲りて見分けがたけれど、是爲朝なるべしとて其首を取る、此の外に入九才なる、男の童の屍と女の屍と只二つあり、童は島冠者爲賴、婦人は爲朝の側室彫江なりと、島人等が申に由て扨は件の大男は爲朝に紛れなしとて、景廉を此の日高名の一の筆に記し、爲朝の首をば同年の五月洛へ上せて梟し後の白河法皇は二條京極に御車を立させて叡覽あり、洛中の貴賤道路に群集して之れを見ました。



京城新報

韓政黨の解散を望む

一國に政治あり、政治を行ふに政府あり、政府を助け若くは之に對抗するに政黨あるは、殆ど今日文明國に於ける通義狀態にして、政府政黨の關係其宜しきを得るもの即ち立憲政治の美を濟し居れり。所以に政黨なるものは、今日に於ては既に公認せられたる一の政治機關として缺くべからざるものたり今半島に於ける政黨と稱するものを見るに、其組織及經歷に於て一も所謂政黨と見做すべきものなし、先づ一進會に就て言はんに、始め同會は惟進會、負褓商及天道教徒の結合したる者にして日露戰爭中我軍に人夫を供給したる緣故により、自ら親日黨と稱し、常に日本關係事とし云へば、韓人中にありて一手販賣の如く心得、虎の威を籍る狐の振舞を爲しつゝあり、成程一時は會員の數も百万と號し得たるも、今は唯月費二錢を納むる千内外の會員を有するに過ぎず。而も會員中眞に政見を有して國事に盡くすものは殆ど之れあらず、所謂一の私黨朋黨の類に過ぎず次に大韓協會に就て言はんに、同會は同友會其他の後身にして、其創立の際は陰に政治的野心を懐きながら、陽に教育の普及と韓本位とを標榜し、日を經るに從ひ漸く行動排日に傾きつゝあるを認むるの外、何等眞の政黨の行動を執らざる事猶一進會と異なる所なし。若し夫れ西北學會に至ては、西北諸道の青年を驅り集め、教育の普及を旗幟とせるが、其は高麗朝に屬せる彼等の祖先が李朝に亡ぼされ爾來全く政權に遠かり居り、政權に近くは實力の如何に據るとし、借て教育の普及を謀かり恰も我維新後の東北人の如き觀あり。然れども是れ亦た所謂政黨と稱すべきものに非ず。

以上の三團体が近頃相接近し、一千萬の韓民を代表すると稱して種々なる劃策を試みたるも、這は元より彼等の勝手の行動にして多數韓民の與り知らざる所なり。一進會は今回の藤公兇變以來日本の政策の變動を豫測し、時好に投せんが爲めに合邦問題を擔ぎ出し、大韓協會が韓民の思惑を慮り同問題に近づかざるも、是れ皆自己の利害より打算せる勝手の行動に過ぎざるなり露骨に之を言へば今日現存する所謂韓政黨なるものは、衣食の資を得んが爲に結べる朋黨側派に外ならずして、其目的を貫かんが爲に、終始何等かの問題を覗ひ居るものなり。然り而して今日の半島は昔日と異なり、政治は統監の手によりて行はれ、日韓關係變換等の場合、必要あらば日本政府何時にても之を決行し韓人私黨側派等の容喙を許さず勿論援助等を俟たざるなり、而に何事ぞ今や一進會と云ひ大韓協會と云ひ將た西北學會と云ひ幷が有する一家一黨の目的を遂行せんが爲め或は盲動し或は排擠し延て公安秩序を害するに至る私黨側派存在の弊を茲に到つて其極に達せりと云ふべし。事狀已に斯の如し而らば今日に於ては最早韓政黨の存在は害あつて益なく一日も許すべきものに非ず、當局者は宜敷公安に顧み此際自稱各政黨に解散を命じ一般韓民をして惑亂の禍中に投せしめさるの措置を採ること最も肝要也

東京電報

▲渡米團の歸朝期 渡米實業團澁澤男一行は六日夕ホノルヽ出帆十七日朝横濱に歸着すと(八日)

▲本年の麥收穫高 農商務省の調査に依れば本年度の麥實收額は二千百五十二万三千百廿八石にして之を平年に比すれば九分一厘の[illegible]增收(同上)

▲日英博出品運送 日英博覽會事務局は横濱、神戸、門司の各所に出張所を設け出品物輸送取扱事務開始し廿二日より各便船毎に輸送し一月中旬迄に終了すべし(同上)

▲淺間山の大鳴動 昨夜信濃淺間山俄然大鳴動噴火し附近の硝子障子壁破壞し火焔數里に及び慘を極めたり震動は常地迄達せり以て如何に慘ましかりしかを知るべし

▲東宮妃の御快癒 去月以來胃腸病に罹らせられ葉山御用邸に御療養中なる東宮妃殿下には昨今御快癒あらせられ近く東京に還啓あるべし

▲遣米艦出雲歸航 米國桑港ポートラ祭に參列せし軍艦出雲は只今無事横須賀に歸航す(同上)

▲桂總理大臣歸京 桂總理大臣本朝歸京せり(同上)

▲獨逸大使の歸任 賜暇歸國中の駐日獨逸大使ムンム男は七日敦賀着露船にて來着八日午前九時新橋着歸京せり(同上)

▲新井中將に下賜 故新井中將の葬儀に付本城侍從を御差遣あり幣帛紅白絹各一疋を御下賜あり尚生前の功勞を思召され兩陛下より祭粢料として金六百圓を下賜せられたり

紐育電報

▲尼國形勢の依然 ニカラグア國の形勢は依然たり米國海兵一千名ブリユーブルトに到着せり

歐州電報

▲奉天領事の召還 奉天代理領事クロード氏は日本に反對の報告をなしたる爲め本國に召喚せられたり(八日着)

▲丁抹國皇族の訃 本邦來遊の噂ありし丁抹ワルデアーク親王妃殿下は逝去せられたり(八日着)

雜報

技術官會議(二日目)

商業會議所樓上に於て開催中の農產技術官會議第二日目は昨日午前十時開會出席者は二十三名參列員は中村農務局長塚本度支部技師澤學部事務官理財局伊藤榮鄕水產局長忠北觀察道屬托木村技手原島畜產課長山本農務課長以下局員外農工銀行金融組合員等にして中村局長議長席に着し諮問案第一の事項に付十四番より二拾三番まで順次其の所見を陳述せしが午前十一時半趙農商工部大臣臨席せられ一場の訓示演說あり引續き同事項に關し黃州金融組合奥村技手平壤押切技手開城直江技手光州池田技手慶尙農工銀行生山技手等の所見陳述終りて午后四時散會したり

外人と司法警察

從來外國人に關する司法警察事務は總て理事官の指揮監督を受けたるも自今總て當該地方裁判所檢事正の指揮監督を受くることに改正せられしが裁判所支部管內の司法警察事務にして緊急を要する場合に於ては支部檢事の指揮監督を受くる筈なりと尙は此規程は韓國との條約國外の外國人に對するものにて條約國は治外法權を有するものなれば勿論之れに服するの義務なしと

韓國徵稅の成績

九月末日に於ける韓政府徵稅成績は調査額千〇三十四万五千六百二十四圓七十一錢四厘に對し收入總額は五百三十萬五千六百六十八圓〇四錢九厘にして其半額の未收入ありとは驚く可し

●關稅監視船の動靜 關稅局附屬監視船は既報の如く根據地を仁川、龍湖島、龍岩浦の三所に置き廻航以來各所管海區を游戈し監視に怠らざるが同船の就任務以來密漁船に遭遇檢擧せしもの極て少數にして夫も多くは故意に出でしものと認めず能く將來を警め何れも放ち遣りたるが昨今は既に終漁の季節にて一般漁船の隻影を認めざるが要するに監視船巡航この警言が既に密漁者に對し大切なる警告にて今後周到なる監視と共に密漁船の出沒は多年を出づして其跡を絶つに至る可し

●治安警察法の準用 一進會が聲明書發表以來世論は鼎の沸ける如く狂騰し漢城の政界は宛然修羅の巷に似たるが元來韓國には尙未だ治安警察法の施行なく之れが爲めに各政社を始め個人に於ても自由に政治的行動を逞ふすることを得て遂に昨今の如く混淆擾亂又拾收すべからざる如き大に考慮すべき事に屬するを以て吾が當局者は此際司法權委任の權內に於て日本の治安警察法を準用し檢事の職權を以て其取締を斷行せしめんとの內議ありと

●一進會員の不統一 一進會が日韓合邦に關する聲明書發表の議わるるや同會の領袖前國民新報社長韓錫振氏は脫會したるが今又副會長洪肯燮氏の脫會を見るに至れり而して同會にては一昨七日午後七時二十分臨時總會を開き撰擧の結果金鐘銘氏大多數を以て副會長に選定されたり

●國民大會の準備會 現內閣の意を受けて日韓合邦論に反對せる國民演說會にては演說會を開くの傍ら國民大會を開催して大いに輿論を喚起せんとて一昨七日午後二時より鐘路の商業會議所に會長閔泳韶外約五十名會合し大會開催準備の爲め百名の委員を擧げて散會したるが該會は大韓協會の主唱に係り來る十二日石鼓壇に於ける國民大會に關係あるは勿論の事也

●各道と屠獸法實施 內部衞生局にては屠獸法實施に伴ふ諸般の取調に忙殺せられつゝあり屠獸法施行細則は咸南を除く各道共提出濟なるも畜肉取締規則は未だ慶南北忠北の三道のみにて全部取纏めには尙餘程の日子を要すべきが當局者は同法の實施と共に從來の庖肆規則と抵觸するとて之が勘らざるも現今の屠獸營業者を失業せしめざるやう便宜の方法を講ずる筈

●平壤煉炭所設置地 農商工部にては平壤炭坑の大擴張を行ひ現在の人力採炭を動力に改め同時に煉炭所を設置すべく來年度豫定經費七十万圓を要求したるが其內煉炭所の經費は約十万圓にして一般會計に編入したり而して該所設置地は炭坑附近に撰定すべきか或は平壤市內に設く可きかに就き其利害を調査中なりと云ふ

●麻浦の煉瓦製造所 麻浦に度支部の所管の煉瓦製製所あり此煉瓦製造所が手をかへ品をかへて個人經營の煉瓦製造業を壓倒し盡して今や斯業を獨占せるは苟も婆婆氣ある人々の熟知する處なるが件の製造所が燒出す煉瓦の數は一ヶ年八百萬個に達し之を彼の山阪を踰へてに供給しつゝ在

●仁川龍塘浦間航路 仁川龍塘浦間は天草成歡安東の三汽船不定期廻航しつゝありしも去月の强風にて天草丸沈沒、而も成歡は四十噸內外の小汽船にて荷物の積載出來ず僅かに安東丸によるのみにて近來仁川方面に輸出入の荷物停滯する折柄とて交通上一層の不便を感じ居れりと云ふ

●合邦上奏却下さる 一昨七日の大臣會議に於て一進會の發表したる日韓合邦に關する聲明書に就き協議したる結果韓皇への合邦上書は之を執奏せず同會に却下する事に決定

●邊境の警備不充分 北韓露領と接近する地域には未だ警備機關不充分にして匪徒相往來し其他治安保維上嚴重なる邊境警備の必要あるを以て此れが實行方法に就き統監府に於て目下審議中なるが多分某々地點に兵員を配備さるに至るべしと

●上奏愈々却下さる 李內閣總理大臣は一昨七日午後八時金秘書官を一進會本部に遣はし同會より韓皇へ執奏を乞ひたる日韓合邦に關する上奏文は却下せり其理由としては統監邸に於ける大臣會議にて却下に決定したるを以てありと告げたる由なり

●實業學校施設調查 明年度に於て地方費を基本とし國庫の補助を仰ぎ實業學校を施設せんとの希望を有する道勘からず學部にては材料下調として不日秋山編輯局長島師範學校教授を群山全州公州大邱に差遣すと

●平壤鑛業所擴張費 平壤鑛業所に於ける來年度の豫算は經常費五十万圓にして新事業の擴張費は七十萬圓なるが此の內容は煉炭所原動所及び修繕工場の新設等なりと云ふ

●憲兵隊本部の移轉 駐韓憲兵隊本部が分隊右隣に移轉することは既報の通りなるが愈々昨八日より新家屋に移轉して執務しつゝありと

●一進會上奏再提出 一進會は別記上奏の却下に對し大に憤激し更に李首相に再上奏を迫るべしと

●國庫剰餘金支出 今夏流行の虎列拉豫防費として一萬八千七百三十四圓を國庫剰餘金より支出の件裁可せらる

●敍任辭令 左の通り辭令ありたり
任內藏院理事(三等五級) 青山淺次郎
任宮內府事務官 同一級 尹世鏞

釜山關稅の發展(山岡釜山稅關長談)

釜山關稅局引繼ぎ以來逐年輸出入共益增加の姿なるが殊に昨年の如きは開局以來の盛況にして一千三百七十五萬圓に上れり右は日本鐵道より連絡輸出入地京城、仁川、平壤、新義州、大邱の五區を除外としたるものにて同局の扱ひに係る以上額は主として三南地方の集散と見て差支なかるべし尙は本年も十一月迄に約千百餘万の輸出入を算せしが昨年と同額には本月一杯に二百萬圓の出入なかるべからず併し是は望み難き事なるべし畢竟するに本年の昨年に比し多少の遜色あるは不景氣の餘響なるべし尙は最近米國油の輸入頗る盛にして爲に仁川局扱高を凌駕するに至れり

練習艦隊の出港

仁川港に碇泊中の練習艦隊阿蘇、宗谷の兩艦は今九日午前九時同港拔錨鎭海灣に向ひ本月十五日頃同灣發佐世保、鹿兒島、津を經て本月末日横須賀に至り候補生一同 天皇陛下に拜謁仰付られ來春早々遠洋航海の途に上る豫定

京城民會の模樣

既報の如く京城居留民會は七日夜民團樓上に開催したるが原案民長給料の件は三級俸年俸二千圓交際手當月五十圓に決し又會計役は海浦鶴彌氏に滿場一致を以て承認を與へたり而して七日夜の民會は古城新民長第一回なれば最も圓滿に進行終結したりと

●滿洲大豆の大混戰 滿洲の一大物資たる大豆及び豆粕が三井に依つて歐洲輸出を計畫されたるより昨年に至つて外商の直輸出を見今年の如きは一大混戰を滿洲の野に見んとする狀態を呈したるが去月廿八日歐洲輸出第二船たるベナボン號が搭載したる大豆六千四十三噸即六萬五千六八百八十袋の荷主は双順太、晋太豐の兩清商にして仕向け先は丁抹なりと是は清商の直輸出に於ける嚆矢にして而も新市場を開拓したるもの故今後滿洲の大豆戰は更に一層の激烈を加ふべく本邦輸出商の打擊は少小ならざるべく一般輸出商は大に警戒し始めたりと

●練習艦隊の午餐會 仁川港に碇泊中の練習艦隊司令官伊地知少將は八日午後一時より旗艦阿蘇艦上に於て京仁の重なる文武官數十名を招待して盛大なる午餐會を開きたるが京城よりは石塚總務長官事務取扱を初め榊原憲兵隊長、外波大佐、兒玉書記官、佐竹秘書官外十數名並びに仁川よりは信夫理事官、同夫人、橋本副理事官、宮木稅關長、岩崎民長參列したり

●海軍將校等の來往 入京中なりし仁川碇泊練習艦隊阿蘇宗谷二艦の乘組將校海軍少佐山口傳一、軍醫中監根來祐春、大主計村上春一氏等の一行は一昨七日仁川へ向つて歸艦同時に又同艦隊乘組の海軍大尉高野五十六、中軍醫平野正登、中主計內田正廣、少尉木村正治、同近藤信介氏等は入城巴城館不知火旭旅館へ分宿せり

●興銀支店の閉鎖說 目下京城に於ける銀行は九ヶ所ありて日本の中部會にも勝る有樣なるが其內日本興業銀行支店は單に政府貸付金の利子を取立てる外殆んど普通銀行業務なきを以て近日閉鎖すべしとの說あり

●仁川市場の開場期 仁川栗木洞に開設せんとする韓人市場は其後計畫者の手にて寄附金を募集しつゝあり着々好結果を收めつゝあれば歲の市迄には開場の運びに至るべしと

●土木局長の視察談 此程歸任したる內部土木局長劉猛及び民籍課長趙羲九は八日午前十時より內部大臣官房にて約二時間日本視察談を試み內部關係課長其他傍聽せりと

●韓國皇族等の來任 昨八日午前十時南大門發の列車にて韓皇族完興君永宣君及び隨員若干名は始興に赴き同日午後六時歸京したり

●慶州の農產品評會 慶州郡守の主催にて來る二十日より農產物品評會を開く筈右に對しその筋より八十五圓の補助金を下附されたりと

●米國總領事の着任 仁川港に一昨七日長崎より入港せし山東丸にて京城駐任米國總領事及夫人着仁直ちに入京し當地總領事館に入れり

●木內農商工部次官 豫て北韓地方へ出張中なりし木內農商工部次官は釜山よりの急行列車にて昨日午前八時四十五分南大門着歸任せり

●新舊民長の送迎會 民會議員一同は前民長熊谷賴太郎及新民長古城管堂氏を招待し來る十日午後六時より花月樓に於て送迎宴を開く由

●李侍從免官せらる 宮內府侍從李範植は一進會員の故を以て七日付侍從職を罷免せられたりと

●警視總監統監訪問 若林警視總監は八日午前曾禰統監を訪問し時局問題に關し打合す處ありたり

●鴨綠江全面結氷す 鴨綠江は七日夜來の寒氣にて全面結氷未だ徒涉する能はず連絡船は勿論休止

●會計役認可の申請 京城民會にては會計役の推任を承認したるが八日朝理事廳へ承認方を申請す

●民長及會計役引繼 京城民長及會計役の事務引繼は兩三日中に執行し同時に會計檢查をも行ふ筈

●仁川稅關吏の清語 仁川稅關にては清韓貿易上直接の必要なる清語の研究會を設けたりと云ふ

●武內機關少將入京 武內機關少將八日釜山より入京したり

●蠟山氏の歡迎會 關東都督府財務課長蠟山長次郎氏內地より歸任の途次兩三日前來京中の處在京城同氏の舊知人二十餘人は八日午后五時より同氏を招し翰翠樓に於て歡迎會を開きし由

●古城民長披露宴 新任京城居留民長古城管堂氏は來る十一日午後六時官民有志數十名を京城ホテルに招待して新任の披露を爲す由なりと云ふ

●秋岡德生氏來京 朝鮮問題同志會員秋岡德生氏は同會の先發として七日夜入京巴城館に投宿せり尙福田和五郎大谷誠夫兩氏は來る十日入京の豫定

●釜山稅關長入京 釜山稅關長山岡義五郎氏は昨八日南大門着汽車にて京城尾旅館に投宿四五日間滯在の由

●小田倉囑托歸任 久しく東京伊藤公爵邸に滯在中なりし統監府囑托小田倉氏は八日朝南大門着歸任したり

●村瀨醫士の着任 仁川病院產科人科醫長日野武男氏は今回辭任し後任として東京より得業士村瀨英二氏着任

●三浦理事官出張 三浦京城理事官は水原道路視察の爲七日出發八日歸

●白耳義領事下仁 白耳義領事は日午後十二時南大門發列車にて下仁

●竹內書記官退京 慶尙北道書記官竹內卷次郎氏は七日大邱へ向つて出發

●安武辯護士出發 辯護士安武千代吉氏七日釜山へ向け出發

●長谷川社長退京 鎭南浦新報社長長谷川義雄氏は七日釜山へ向つて出發

●山本策平氏出發 横濱貿易新聞記者の同氏は七日釜山へ向つて出發

●杉浦文治氏退京 横濱ジヤパン…プレス記者の同氏は七日釜山へ向ひ

▲治外法權▼

伊藤公の生居つた中てこそ公に壓へられ若しくは遠慮して半島問題に關し自由の論議を爲す者が少なかつたが今となつては遠慮が取れた爲め思ふ存分何でも云ふ者ばかりになつた▲對韓同志會連が日韓問題の最後の解決を見なけりや承知せぬと意氣込んで居るのは殊勝の事である、併し[illegible]を成就するには時もあれば方法もある所謂合邦論などにかぶれて取返しのつかぬ破目に陷らぬ樣要心が必要である▲合邦問題に關する統監府の詳報を得るに桂首相大阪より歸り元老閣議の往來頻繁なりと何だか意味有りげな電報をよこしたものがある、はて手品がれ若い〳〵▲一進會は合邦實現の爲に死を決すと揚言して居る嗚呼死するとき死せざれば死に勝る恥ありかね▲小役人の中で二三人かの合邦騷ぎに關係して居るものがソーだ、長官の眼玉を喰はぬ中に[illegible]したら良かろう▲日韓瓦斯電氣會社電車はコールブラン經營の時より數も收入も減じたソーだ、早く複線にでもして公衆の便益を計り會社自身の收利も益す樣にしたら良からう。

●鐵道青年會の講演 龍山鐵道青年會にては來る十一日午後…

●天氣豫報(自八日午後六時) 北西の風曇但少雪

…出張所年會にては來る十一日午後七時より學術講演會を局員集會所に於て開催す演題及講演者は…(保母紀)題未定 …の話…家庭の改良に就て…三雄氏

吉凶 本町五丁目 三一號判斷 十二日九日…廿七日四…

各地の新聞



▲御用商人の拘引　故兒玉源太郎伯の妹婿にして統監府書記官兒玉秀雄伯の叔父に當る京都府愛宕郡田中村字大澤に別莊を構へ居る狹間正隆(六七)は石本新六(陸軍次官)山中信義(第十六師團長)等は親友なりと吹聽し第十六師團及び舞鶴海軍の御用を勤め丸八商會と云ふを設けしも出資者に苦情を生じたる爲め解散し其の后奈良縣高市郡高取町桑農林幸太郎を呉、舞鶴の御用商を營むと詐り二千五百圓を出資せしめ酒色に費消かしこと發覺し四日午後一時京都川端署の手に自宅に於て取り押へらる

▲千日前の大椿事　大阪南區千日前改良座燒跡にて同座持主難波新地大矢藤松が自轉車の曲乘りを興行し居れるが五日午前八時頃雇人西川淺吉、同町千代野席雇人中川久太郎、東關屋町手傳棟梁市松方小林彌太郎、西關屋町手傳業前田定次郎の四人が焚火せんとて五六本の割木を集め火を附けたるも燃え上らざるにぞ揮發油の罐を持ち寄りたるに忽ち爆發し四人とも大火傷をなし久太郎の如きは一命危しとの事なるが久太郎と彌太郎は宮本病院に淺吉と定次郎とは明治醫院に入院治療中

▲仲裁人に斬付く　大阪東區平野町八丁目鳥居裏床奈良こと石橋奈良吉が四日夜十一時頃同所に於て賭博中人の入り來しを巡査と思ひ逃げ出したる姿を可笑しとて東區谷町九丁目平岡鶴松方きくゑこと岸田かるが笑ひたりとて谷町七丁目にてかるに斬付けたるを南河內郡道明寺村大字林當時東區平野町七丁目津の國房吉が仲裁したるに奈良吉は理不盡にも同人の脇腹を刺し其の儘東成郡鶴橋村に逃げ去りたるが五日午前八時天王寺署の手に捕はれたるが被害者は生命覺束なしと

▲郵船山口丸座洲　郵船會社所屬汽船山口丸は五日午後四時門司港を解纜し上海航路に就かんと西行中急潮の爲めに同港小森江沖の淺瀨に坐洲したるも同夜の滿潮に無事浮揚りたり

▲水難救助夫葬儀　今回山口縣豐浦郡豐西中村字安岡村なる救助夫柳非岡本郎が病死したるに對し最高至善の天職に從事せりし故を以て其の葬儀は莊重なる典禮を以て四日執行せらる

▲投身村長の死　種々の風說ある大坂府下濱寺村長の生死は未だ判

▲喜佐方丸の乘客　沈沒滊船第二喜佐方丸の船員は三十三名にして乘客二十五名なるが今大連より當地に達したる乘客の氏名は左の如し

大阪東區伏見町二丁目梶村義路▲東京日本橋通三丁目商人原源藏▲山口縣熊毛郡商そき▲東京芝區中角前會社員鷲尾治三郎▲同上同うた▲同上同のぶ▲廣島佐伯郡宮島町雜貨商元島佐市▲同上雜貨商阪本安五郎▲廣島縣廣瀨漁夫大野文造▲山口縣都濃郡串ケ濱濱田捨松▲福岡縣企救郡西谷村運送業下田藤作▲大阪市南區清水谷西へ入る受負業北口治三郎▲熊本縣天草郡內深田村漁夫杉本信太郎▲下の關外濱町吉田正吉▲廣島縣深安郡引野村大工土月時二郎▲愛媛縣西宇和郡磯津村大工佐々木喜佐八▲島根縣那賀郡渡津村大工榊武一▲同上ふみ同上玉作▲熊本縣葦北郡津奈木村大工伊藤義一▲熊本縣天草郡三島村大工高橋德松▲東京市四谷區傳馬町麵包商人佐藤金四郎▲神奈川縣橫濱市松永ため

▲九州警察評判記　九州一圓を荒し廻つた兇賊九州の電小僧捕縛の事は既報の如きが裁判所へ押送さるゝ前一夜長崎水上署の留置場で九州各警察を會釋なく批評して曰く「門司●には眞の刑事といふ者一人も無い此私を度々浮浪罪で拘留し乍ら誰も大賊と見拔く者が無かつたぢやないか」鹿兒島●は恐ろしく口先で如何共胡魔化せる「否鄙漢でナカ事はわかつちよる」と云つた樣な始末熊本●と佐賀●は目の利いた刑事の居ない點が似たり寄つたりで大分●の刑事は功名心が强過て互ひに橫合から手を出し合ふから肝心の犯人を逃がす福岡●は何せ九州第一に交通が開けて居る丈に慾くり仕事が出來ない長崎●の刑事は八方美人で口先が甘い調べ方は一寸味をやるが未だ〳〵吾々の眼から見たら子供の樣な者だと氣燄万丈夫を引括めて私の荒した九州各縣で福岡●と長崎●が一番海氣味惡く大分●と門司●が一番樂でごわりましたと吐しよつた

慶南沿岸の海賊

▲被害船頻々たり　慶尙南道長興郡大興面金仁知及び姜成必の兩名は統營に於て木綿雜品(百七十圓)を購入し韓船に搭載して歸途に就きしが興陽郡絕金島と莞嶋郡里塘島の中間に當る沖合に於て一隻の海賊船現はれ五名の賊は鐵銃及鐵棒を携へ刎子七名乘客三名を縛し前記商品を掠奪し去りしが近來同地附近にては頻々と賊難に罹る者あり往來船は大に恐怖しつゝありと云ふ

梟徒部將末路

▲逃る所を銃殺す　京畿道長湍郡江西面紫霞洞金光玉は賊魁金守民の部下に屬し兇惡無殘の小首魁なるが昨年七月歸順して六ケ月の盜親執行中十月又もや余の群に投じ爾來各所を横行し良民を惱まし其筋にても彼れの逮捕に苦心し去月三十日漸く逮捕し多數の武器を押收し歸途同面馬城里の山麓にて怪しき韓人に出遭ひ首藤上等兵は是を誰可せしに余は其際に乘じ山中に飛込み逃亡を企て何分追及する能はざるを以て止むなく背後より銃殺し死體は同人の父金學瑞を呼出て引渡し歸所したり

酒造組合の不正手段

▲愚民を勸誘して募金　漢城財務監督局認許京城酒造組合內に於て名を酒麴改良研究に籍り各地方に支會を設け會員募集との名の下に巧に愚民を勸誘し金員を募集するものあり其唱道する言によれば韓人は由來協同の事業に習はず遺憾の事なり何ぞ邦家の衰敗は食料品の劣等なるにあり就中現今の酒造改善は國家生存上最も急切を要す云々と恐らくは就かぬ囈語なれども純朴なる地方人民は是等勸誘員の甘言に乘せられ募金に應ずるものありと

▲驚くべき大小便の收入▼　共同便所にも上等下等の區別がある上等とは肥やしに賣つた値段の高い處を云ふものである、そして一般に婦人の多く入らぬ便所は大小便共に値段が高い相で、矢鱈嬬女子の入る便所の便は百姓が肥しに仕ても怎も利目が無いと云ふ事だ、小便に迄も女は男よりも劣つて居ると見へる、東京では吉原五十間町の共同便所が一番繁昌して居る是れは吉原通ひの遊冶郎多數に放尿するからで卸賣屋が受けるのが一ケ年大枚五百圓である、故に之を百姓に賣る値段は一ケ年六百圓內外で併も此の高價で猶取ツこをして買つて行くのである、小便の寄合ひ、之れは古今未曾有の事である、左に揭げたは本年十月に出來た東京大小便統計表である。

參謀本部(一ケ年)		十六圓八十錢
貴族院	同	十四圓
東京府廳及東京市役所	同	十二圓
農商務省	同	三十四圓
神田郵便局	同	三十九圓
新大橋稅務署	同	三圓五十錢
陸軍火藥庫	同	九圓六十錢
東京監獄	同	四百六十八圓
陸軍被服廠	同	百九十九圓五十二錢
東京紡績株式會社	同	二百五十圓

韓人漁夫九名の救助

▲日本海で諾威船の爲　諾威滊船サアキユレス號(三千七百八十九噸船長ジヨジ、ビヤーク氏)は去る二日浦鹽を出帆し門司へ向けて日本海を航行中三日午後六時韓國北靑有島沖北緯三十九度一十分東經百三十一度十九分の處に於て一等運轉士は右舷より約一浬前方に難破せる一漁船の篝火を認めたればボートを卸して救助せんとせしも連日の暴風雨の爲め海上荒れ狂ひてボートにては近付き難きを以て辛うじて本船を近寄せたるに漁船は浸水して將に沈沒せんとし船內には韓人漁夫九名潮水に濡れて瀕死の狀態にあるより早速水上のロツプを卸し彼等の腰を縛りて引揚げ應急の手當を施し五日午前九時門司に入港し門司水上署に屆出でたるより同署よりは警官通譯等滊艇明保丸にて同船に出張し該遭難者を引取りて歸署し取調の末門司市役所に引渡したるが彼等は韓國咸鏡道西湖居住の漁夫にて客月二十八日朝北靑有島沖に出漁し居たるに廿九日午後六時頃暴風襲來せしため難破し五日間飮まず食はずにて漂流し居たるを救助されたるなりと因に其姓名左の如し

韓有一(三六)朴照燮(三三)朴永燮(二〇)韓有學(三三)韓有益(二〇)柳泳光(五三)金在永(五四)金河京(三三)宋用卷(二一)

賣懸代金を着服逋亡

▲仁川から群山に向ふ　仁川仲町二丁目米商中上嘉作方雇人志賀重泰(三三)と云ふは先月廿日同地伊藤口入屋の手を經て雇入れたる者なるが一昨日懸金を取立てたる儘之れを着服して主人に宛て自分は午后五時發列車にて入京するとの葉書を差出し其實同日出帆の信濃川丸に僞名して乘船行衛を晦まさんとせしが見破られて其旨仁川署に訴出で同署は直に群山署に向け取押へ方打電したりと

●猩紅熱の流行　昨今京城市內に於て小兒の猩紅熱病に罹る者續々として流行せるが一昨七日本町六丁目五十八番戶官吏橋本康哉男康彥(六)は猩紅熱と診定し贊化病院へ▲曙町四十五番戶盛屋吉原某の子常房(二)は七日發病直ちに靑坡病院へ入院せしめ何れも治療中なるが昨今氣候兎角順調ならず子を持つ親は該病に犯されぬ樣此際特に注意肝要なりと云ふ

●交番に宿の請求　新潟縣生れ當時京城大和區京城日報社隣り畠山休作方同居奥村彥四郎(三〇)は一昨日午前一時卅分頃泥醉となつて和臺城派出所に出頭して熱柿の樣な酒氣で警官に向ひ頻に宿泊を請ふて止まず其体度甚だ穩かならず遂に暴言を吐きて說諭にも服せぬに依り南部署に引致して翌朝酔醒の上厚く訓戒して放還したり

●大和町のボヤ　去る六日午後六時卅分頃大和町一丁目卅八番戶平原本造方大工小屋の溫突內に味噌樽を置き溫氣を遺る爲め焚火をなし其際看視を怠りたる結果室內の壁紙に點火し遂に屋根に燃え移らんとしたるを發見して大騷ぎとなり直ちに附近の者驅付け大事に至らずして消止めたり

●天氣豫報(自八日午後六時至九日午後六時)　北西の風曇但少雪
七日(晴氏)　最高溫度 七、二　最低溫度 三、九

●横着擔軍の泣面　一昨日午後三時頃南大門通一丁目電車通りに於て永樂町三丁目十一番戶毛呂德衛(三六)と右材木と硝子板を背負ひたる擔軍と行逢ひの際擔軍の負ひたる古材木の釘が德衛のインバネスに引懸り二ケ所を引破りたる擔軍の硝子板が地上に墜落して全部滅茶苦茶に破壞したるを同人は龍山漢江通り四丁目北川鳥造(四四)の荷物なれるが擔軍は不當の損害辨償を德衛に請求したるも德衛の損害は擔軍より以上なれば其要求を拒絕したるを非常に怒りて遂に南部署に同行を求め係官に出直判斷を乞ひたるに擔軍は德衛の申分に不正の事なければ擔軍は深く說諭を加へられしかば泣面下げて引取る

●上方の無錢飲食　去る六日午後八時頃太平町三丁目番戶不詳飲食店有樂軒事梅津磯吉(二三)方へ龍山新市街番戶不明土工大阪府生れ平民靑山進(二三)が來り酒肴を命じて鱈腹飲酒の結果六圓九十錢の仕拂ひが出來ず遂に其筋の厄介となつて同人の友人太平町一丁目六十一番戶大工職村田助次郎(三〇)が調金して支拂ひて示談となる

●擔軍の賭博說諭　昨日午前〇時過ぎ仁川紐峴驛構內三等待合室に於て平洞居住の擔軍金鳳基(十九)外五名の韓人が車座となりて一錢賭博に耽りつゝあるを警官に見咎められて派出所に引致され說諭の上放還さる

●一昨夜の敷島　一昨七日の敷島遊廓揚高は百五十二圓十錢にして登樓の數は五十名なりしと

●一昨夜の新町　遊廓の嫖客數は百人散財額五百九圓二錢なりしと

●文明廚爐の好評　大坂東區本町通渡邊筋角島田支店より製造發賣をなす文明廚爐は專賣特許品にして體裁もよく石油を燃料さすれども無煙無臭にして自炊用には頗る輕便なる器なり何今回器械に改良を加へ取はづしを要せずマツチ一本にて點火し得らるゝ上に即席煖爐と變化する等文明の良器なりと



◀平民文庫▶

▲昨日午前中のこと本町二丁目の金光堂裏手に當つて黑煙濛々として立ち騰りたるを見たる氣の早い泥坊街ツ兒ソラ二ツ火事だと喚きたるにぞ尻尾のない彌次馬殿が閧を作つて店頭に泥脛踏ん掛くるあり斯くと知つたる店主慌てくさいことこの店頭に踊り出て「方々迎まり玉ふべからず、右樣は今日此の頭の寒さに拙者は寸白家內は疝氣に惱まされ何ちやら家內安樂丸に眠れが來たので藥て置かれず炬燵どもして暖もらんと裏の空地で俵を燃やし灰を作つて居るものにて決してボヤには御坐なく候早々店前を引き候へ」どぞ我鳴たり、然るに又も之れを誤り傳へ「何に灰を作るとて俵を焚したるより火を出したと一大事なり」と計りに又もや閧を揚げて以前にも增して押し寄するにぞ御亭主一時に大へコミで寸白で痛む腰を擦つて居たが漸くにして賓料明一同引揚げたるが此の騷ぎの爲め妻君は疝氣が頭に上り頭痛がすると云てぼして居たが直くに治つて了つたとは結構々々(風顚子)▲京城若草町八十九番戶の二宮田兼三郎方にては每夜狹き道路に大きな荷車を放置してあるので往來の危險は甚く可きものがある何んとか取締つて戴きたい(通行人)▲日々吉凶鏡を出して下さつて誠に參考になりますが我々貧生の爲め人員を限りて易の御制斷を乞ふ譯には參りますまいか(明治町一商店員)▲三一館さん如何でしよう(係)▲太平町の二葉の仲居君の話は聞いて居るが五十の阪を越して餘り慾な事をすると爲にならぬぞ以來剩錢だけは正直に出せよ僕の友人の內には君の仕方が惡いから君の所へは行かぬが君が心を入れかへれば又行くと云つて居る剩錢をクスチなければ心付けはして遣る時に今度の若い仲居さん此の藝藥アを見習はぬ樣に致玉へよ(ケチン坊)▲浪花館の浪花節は木戶錢が安くて中實が良いので每夜の大入です(當然太)▲度支部會計課給仕宮崎又一と云ふ者はなまいきで役人にはいやがられ他の給仕には反對で日々面白からぬ由だが生意氣なから此れは當り前である(通信生)



▲無料紹介欄▼

人事部

●譲屋たし 年二十五普通教育あるも○鑛山事業にも大に趣味を有す如何なる危險をも不厭 姓名在社（四八二）

●役履度 年三十三才貨物取扱及税關手續に經驗あり英語を解す商店又は會社は屆れたし 氏名在社（四八五）

●女中入用 十五歳以上四十歳以下の上品なる女入用給料は本第保證人を要す（家庭小人數） 旭町老松町三四兒玉

●教雇度 年廿五寫眞術並に測量等に經驗有り 氏名在社（四八七）

●告上原氏 應募申込あれども通知するに由なし往復はがき又は郵券送付ありたし（係）

●徒弟入用 十三歳より十五六歳迄五六名採用 明治町一丁目 糸山裁縫所

●告ケーヂー生 紙上の匿名は可なるも絕對の匿名にては通信するに由なし故に住所氏名を本欄係宛にて通知ある迄掲載を見合はす（係）

●望測量製圖助手 氏名在社（四九一）

●求職 昨今渡韓の十年拾九歳事務員又は商家に雇れたし 氏名在社（四九〇）

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と廻椽二階六疊二間廻椽井戸物置湯取付家賃面談 氏名在社（四七八）

●古新聞 六月後の大阪朝日、大阪毎日、京城日報七月後の朝鮮新報取揃原價の半額位にて讓受たし 氏名在社

●貸家 北部齋洞廿九の四貸家あり宮内府其他韓國側各官衙には便益の地希望に應じ貸差上候

廣告

▶日本の二大賣藥◀
全國各藥店にあり

●三輪井上兩博士方劑
懷中良藥 消化と毒けし 仁丹
▲口中を淸め精神を爽かにす

●醫學士七名合同處方
毒滅
▲梅毒及病新藥



代理店
京城南大門通三丁目
新井藥房本店
電話（九百四番・千六十八番）
京城本町三丁目
新井藥房分店
電話（四七八番）

擴張廣告

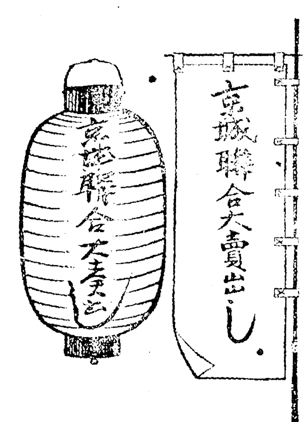
今般描者有名なるソンタクホテルの跡を引き受け改良に改良を加へ精々勉強仕候宴會其他の準備も整へ居り料理も御望に依りては至極廉價を以て調進可仕候何卒御遊旁々御高來の程切に奉願上候

京城貞洞
ソンタクホテル
主人 ジ、ボエル
電話七三九

京城聯合大賣出し

歳末に際し顧客各位の盛運を祈り且年来の眷顧に酬ゆると共に市況の繁榮を圖らんが爲十二月一日より同三十一日迄左記の方法に依り全市聯合大賣出しを開催致候間左記の目標を揭げある加入各店にて御買入被成下度此段奉願上候

加入店目標



景品

一等 金三千圓（債券）
二等 金一千圓（同）
三等 金五百圓（同）
四等 金二百圓（同）
五等 金一百圓（同）
六等 金五百圓（各店商品切手五拾本）
七等 金二千五百圓（各店商品切手貳千五百本）

以下空籤なし

御買上金五十錢毎に景品券一葉進呈仕候

賣出期間 明治四十二年十二月一日より同三十一日まで
抽籤期日 同四十三年一月七日
京城日本人商業會議所に於て各新聞社及公衆立會の上
景品引替期日 同一月八日より同三十一日迄

京城聯合繁榮會
（京城日本人商業會議所內）

●移轉廣告 從來之營業所旭町一丁目角より左之處へ移轉す
質商 川崎萬次郎
元旭町一丁目 電話六七三番

消毒 乳松尾牧場 京城本町五丁目

入院隨意
中島醫院
京城壽町三丁目（電話二七八番）
院主醫學得業士 中島貞信

內外科 小兒病 梅毒淋病
入院隨意
高井醫院
京城壽町三丁目
電話（二一六）
院長陸軍軍醫正 高井貞治

眼科專門
江頭眼科醫院
京城本町一丁目憲兵分遣所前
（電話三三）
前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄



味の素 和洋料理は勿論一般の家庭料として日常欠可らざるもので經節や昆布の様な色々面倒な手數も入らず誰れにでも即座に用ひ得らるゝ調法及經濟的調味品であります
定價一瓶 三十錢 四十五錢
他地方は引換小包にて送ります
韓國特約店 京城辻屋 電話一四八番

●滋養と牛乳●
馬車配達
純良 牛乳
京城東四軒町 岡野牧場 電話壹〇六九番
●衛生と消毒●

防寒用毛皮類 毛皮製作品 新着荷
歐米雜貨商
京城本町二丁目
四ヶ所商店
（電話三一一番）

世界最良牛の生乳より精製せるは此バタなり色香味に於て大成功をなしたるは此バタなり
陸中小岩井農場製
小岩井バタ
小岩井農場は日本に於ける摸範的大農場なりバタ製造に關する經驗智識は同農場の誇なり
合名會社 韓國京城本町三丁目
明治屋支店
電話二一二番

石川高等法院判事閣下校閲
今村內部警務局警視閣下校閲
日韓印刷株式會社編輯部編纂
◎印刷鮮明 ◎類集整然 ◎校正嚴密 ◎攜帶便利

統監府法規提要

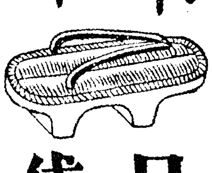
●全一冊● 紙數凡六百頁○○ 定價金六十錢

右發賣豫報以來未だ旬日に滿たざるに分外の好評を博し日々數百部の御注文に接し誠謝の至りに候就ては第一版發賣に際し大日を限り官規等級及俸給表其他諸表等を增補し一層讀者の便宜を謀りたる等設備の完を期し御購讀者の需めに應ずる爲め本月十日迄御申込の順序に依り特別減價を以て御需に應じ候間此際續々御購入被下度奉願上候 敬具

明治四十二年十二月一日
京城 日韓印刷株式會社出版部

浪花節定席
大阪一座開業廣告
兼テ新築中ノ處愈々落成仕ニ付今回大阪浪花節大一座ヲ呼寄セ本月一日ヨリ極メテ安直ニテ精々勉强仕候間何卒御引立ノ程願上候
▲木戸十五錢
京城明治町二丁目
浪花館

東京足袋



本店東京
京城大和町一丁目（日の出橋際）
大和屋
藤井出張店
電話二百〇五番
京城聯合大賣出し福引券差上升

明治廿年七月創立
東京海上運送保險株式會社
資本金一千萬圓
京城代理店 本町四 山口吳服店 電話九番
●事務所 京城本町二ノ三 電話一〇六〇番

特約販賣 自製
漬物 味噌 醬油 製造元
京城本町五丁目
和洋酒、精酎、穀物麵類銘茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尙御望に依り商品切手調進仕候
大上商店
（電話二五一番）

●電話開通 八百三十五番●
唐津石炭 直輸入商
並ニ平壤無煙炭あり
京城太平町一丁目九五
南大門高等女學校裏通り
近藤商店

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）
京城旭町一丁目六十七番戶
辯護士 岡田榮
（電話三九八番）

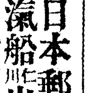
折箱製造元
京城明治町一丁目五十番戶
箱信事 漢城病院下横へ入ル
鳥山商店

歐米新式 高等裁縫
龍山榮町
田口洋服店
電話三一二番

待春日

◎牛乳（純良 消毒 檢查濟）
韓國畜產株式會社
南大門外（電話八八番）

陸軍諸官衙御用達 建築土工請負業
龍山老松町
磯口商店
電話一一九番



日本郵船株式會社
仁川 出帆廣告 電話十番
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 電話三九番
郡回漕店

●釜山、長崎、門司、神戶行 山東丸 十二月十九日後三時出
●大連、太沽行 高砂丸 十二月廿一日正午時出
●大連、芝罘、秦皇島行 山東丸 十二月 日午前六時出
●大連行 酒田丸 十二月 日正午時出
●釜山出帆 元山、清津、浦潮行 神丸 十二月 日午後時出
御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ五十分前ニ解纜ノ事